

生まれ変わった学会の新年度に向けて

山岡 裕一（日本菌学会会長）

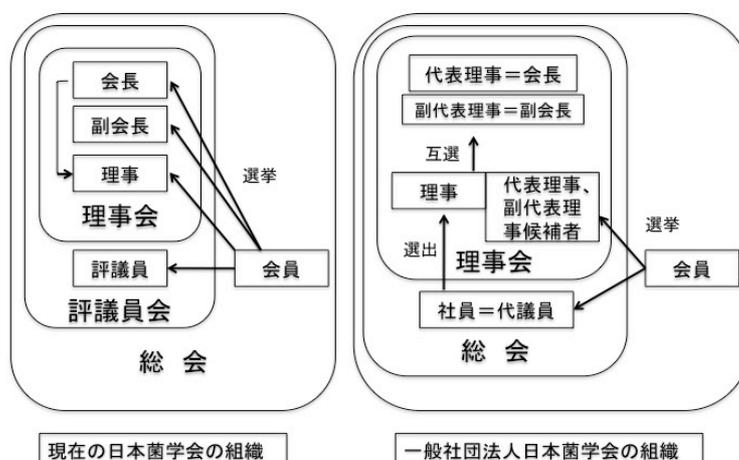
昨年12月1日に、行政書士を通じ「一般社団法人日本菌学会」の法人登記の申請を行い、無事手続が完了致しました。ここに、「一般社団法人日本菌学会」が誕生いたしました。本学会の法人化に向けて何年にもわたり検討を重ねて下さった役員の方々に、法人化の実現に向けて新しい組織作りや移行のための様々な作業に当たられた法人化検討委員会委員の皆様、また、法人化という本会にとって極めて大きな決断に賛同いただき、様々なご意見、ご支援を頂いた会員の皆様に対し、心からお礼申し上げます。

下記の通り、設立時役員、設立時社員を定め「一般社団法人日本菌学会」が設立されました。現在は、次年度始めに行われる「一般社団法人日本菌学会」として最初の総会に向けての準備と、4月からの本格始動に向けて「日本菌学会」からの財産移行等の作業が速やかに行えるよう諸手続を進めています。昨年度実施しました次年度役員選挙の結果を受け、代議員（これまでの評議員相当）と代表理事（会長）、副代表理事（副会長）候補者の選出まで、ほぼ完了致しました。これまで「日本菌学会」では、この会員による選挙の結果から、会長、副会長、理事5名、評議員が直接選出されていましたが、「一般社団法人日本菌学会」では、代議員による総会において理事が決定し、理事会において代表理事（会長）、副代表理事（副会長）が決定することになります。

法人化したことにより、社会から法人格を持った一つの団体として正式に認知されることになり、今までとは異なり、学会として様々な手続をとることができるようになります。社会からの信頼も高まり、学会からの情報発信の影響も高まることと期待しています。しかし、法人化したからと言って、これまで行ってきた活動の方向性を大きく変えるものではありません。まずは、これまで通り、会報の発行、大会、シンポジウム、観察会、ワークショップなどの様々な活動を継続し、法人化した団体として確実に実施し、学会を運営することが第一と考えています。その上で、これらの活動を通して、国内外に向けた情報の発信、菌学研究の発展、教育・普及活動に、学会としてこれまで以上に貢献することができることを確信しています。

昨年、日本菌学会は創立60周年を迎えました。人間で言えば還暦を迎えたことになります。その年に法人化をすることができ、今年の4月からは、文字通り生まれ変わって、本格的に一般社団法人として第一歩を踏み出すこととなります。これまでの活動を継続しつつも、新たな気持ちで新年度を迎えられるよう、まずは準備を進めていきます。

法人化した日本菌学会に対しても、これまでと変わらぬ皆様のご支援とご協力をお願いいたします。皆様の益々のご活躍とご発展を祈念いたします。



これまでの組織と法人移行後の組織

ご挨拶 ～2 期目を迎えて～

山岡 裕一（一般社団法人日本菌学会会長）

前期に引続き、第32期の会長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

すでにお知らせいたしましたとおり、昨年12月に一般社団法人日本菌学会が誕生し、本年度4月からは法人として本格的に始動いたしました。前期、前々期の役員の皆様のご努力と、会員の皆様のご協力により法人設立が達成できました。心から感謝申し上げます。今期の最大の活動目標は法人としての運営体制を確立し、今後の安定した学会運営を実現するための基盤を構築することです。すでに法人の規則に沿って、運営を開始しておりますが、一年目と言うこともありより安定した運営体制がとれるよう微調整をしながら運営体制を確立していきたいと思っております。

平成28年度より、「科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）国際情報発信強化（B）」を5年間交付していただけることになりました。このお金は、菌学会の活動の中でも、特に国際誌（Mycoscience）の編集、発行やシンポジウムの開催などを通じた国際的に情報を発信する力を強化するために頂いております。これまでの諸先輩方、会員の皆さまのご努力により Mycoscience はインパクトファクターを取得するレベルにまで質を高め、国際的にも評価されております。質の高い国際誌を今後も発行し続けられるよう編集体制ならびに編集事務体制を改善すること、国内外で国際シンポジウムを開催あるいは共催等を行うことにより、菌学に関する情報を世界に向けて発信することを精力的に進めていきたいと思っております。

菌学会は菌類の生物学、菌学を学び、研究している研究者、教員、学生、あるいはアマチュアの方々が集う学会です。その研究分野の範囲も広く、分類、生態、生理に係わる基礎学から医薬品、食品、農薬、農林生産業、環境などに係わる様々な応用学研究まで含まれます。対象とする菌群も、かび、きのこ、酵母のみならず偽菌類と呼ばれるグループも、腐生菌、寄生菌、共生菌等々様々な菌類を対象にしている方が集まっています。この環境をお互いにもっと利用できる機会を増やしたいです。基礎学と応用学は車の両輪。どちらか一方では機能しません。両方がバランスとりながら進むことが重要です。お互いに自分が普段研究している分野以外の分野にも目を向け、また互いに情報発信し、お互いを良く知り合うことで、新しい発見や技術の進歩を生み出すことができるのではと思います。今年の夏は環境微生物系学会合同大会があります。このような企画が生まれたのも、多くの研究者が他分野との交流、情報の交換を求めているからだと思います。このような交流の機会を提供すること、また会報やホームページを通じて情報の発信をしていくことが重要と思っております。



これから、どんどん若い世代の数が減少していく中、菌学に興味を持ち、菌学の発展、普及に貢献してくれる人材を確保することは、極めて重要な課題と思っております。高校生物までの教育課程で、微生物に関する学習の機会は極めて少なく、大学入学時点で、微生物に関する正しい知識を持っている方、あるいは菌学に興味を持っている方は非常に少ないというのが現状です。これまでも、高校生、大学生あるいは教員の方々を対象とした菌学に関する様々な講座を実施してきました。このような講座を通じた教育・普及活動の他、現在の若者達がアクセスしやすいインターネットを通じた情報提供に対応する必要もあると思っております。また、菌学に興味を持って下さった方々が活躍できる場を提供し、活動を奨励することも必要と考えています。大会時に開催している高校生ポスター発表の実施や、学生発表優秀者の表彰などの活動を通して、菌学の教育・普及を促進するとともに、若い方々のキャリア支援にもつながればと思っております。

一方、これからたくさんの方々が現在働いている環境から引退されることと思っております。仕事上その学会に入っていた方は、退職時に退会される方がほとんどと思っておりますが、菌学会の場合、退職後も会員として残って下さる方が比較的多いと思っております。それはアマチュアの会員が多いことにもよると思っておりますが、菌学に興味を持ち続け、菌学研究の発展、教育・普及に貢献し続けていただけることは大変有り難いことと思っております。そのような皆様に活躍していただくことは、長年蓄積してこられた知識を次世代に引き継いでいただく機会にもなると期待しております。

法人化しても菌学会が目指す目標、菌学会としての基本的な活動内容が大きく変わることはありません。法人化したことによって、社会に対する責任が明確になり、重くなります。一方、自分たちの主張、行動がより信頼あるものとして社会に評価していただくと期待しております。その期待に答えられるよう活動を続けていくことが重要と思っております。会員の皆様には、今後もこれまで同様に活発な活動を続けていただき、菌学ならびに菌学会の発展に貢献下さるよう、お願い申し上げます。